

1 生命誌とは何か



神話として語られているのではないかと思いたくなりますね。

〔神話と生命誌〕より

中村 神話や昔語を読んでいると、その想像力、直観力に驚くことがあります。多くの神話に科学と重なる語が見られますでしょう。

赤坂 『古事記』では、性と死は対になって現れます。生きものも単細胞の時代に死は無いのですよね。DNAに書かれた生命の歴史が、

科学を物語る

野家啓一(科学哲学)

ヒストリア・ピタゴリス

故・藤澤令夫(ギリシア哲学)

情報と生命

西垣 通(基礎情報学)

池の鯉

西垣 通(基礎情報学)

利便性か、継続性か

勝木元也(分子生物学・発生物学)

生命誌の「誌」

港 千尋(写真家・批評家)

自然研究者・ゲーテ

石原あえか(ドイツ文学)

神話と生命誌

赤坂憲雄(民俗学)

言葉は生きもの

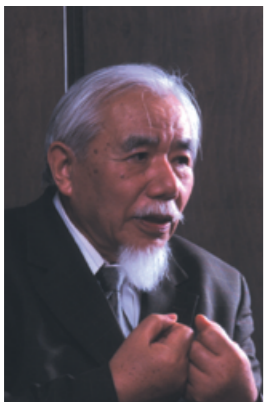
山口仲美(日本語史)

2 言葉が生み出すもの

中村 人間を他の生きものと区別するものは、やはり言語だろつと思つのです。

今道 そのお考えにはまったく賛成です。言語の素晴らしさは、ないものを考え出すことにある。叫びや記号とは一線を画するものです。

〔涙は創造の源〕より



涙は創造の源

故・今道友信(美学・哲学)

グナムが語る叙事詩

川田順造(文化人類学)

詩は科学

故・大岡 信(詩人)

自然は語るもの

黒田杏子(俳人)

定型から生まれる遊び

永田和宏(歌人・細胞生物学)

調和を生む空白

長谷川 權(俳人)

かちかち山へ

小澤俊夫(口承文学)

物語りを生きたる

小野和子(児童文学・みやぎ民話の会)

寛容を紡ぐ

上橋菜穂子(作家・文化人類学)

『ていつつたち』

末盛千枝子(児童文学編集・出版)